

「せんせー何であたしだけ
休み時間に運動しなきゃ
いけないのー!」

「その体育授業さぼってたからっ
たってメンドクサイじゃね
普通の運動とか興味ないし!」





「こいっかがこれいっすいよーだし
あたし身体めっちゃ柔らかいから
必要ないんだよね」

4

「何いっかこ確かめるこ
いっすいよー」



「ん？せんせいなんか
手つきが変態っぽくない？」

サワッ

「あー教師の癖にあたし
みたいな子が好きなんだ？」

サワッ

「あはは唾ついても無駄だっ
てあたし詳しいから
分かるんだよねーそういっ
てん」



「もしかしてあたし一人だけ呼び出したのもさういうこと？」

サワッ

「うっわ最低だねせんせーちよっこえっちな事じこも分かんないって思ってたんだ」

サワッ

「残念でした、せんせーみたいなバカなオリコンおじさんの素之なんてお見通しなんだよね」



「あはは怒ったの？
わからせてやるの」

「ロリっせんせーの
ごちんぽなわがじゃ
出来る訳ないっ」

「いいよ勝負してあげても
あたしが負けるわけない」



「ふーんっ！にん脱がせぬ
しんじの腕はあつた」

「まあまあとこはあつた
きんごの腕はあつた」
もしかして腕あつた」

「しんじの腕はあつた
きんごの腕はあつた」
見なくても分かる」



「けっ結構デカイじゃん…
まっまあ別に大したことないけど」

「膝がぶつくと
入れたらめんど
イっちゃってさ」

バキバキ

バキバキ

「ほら早くやってみなよ
負けるのが怖いなら
今のうちにやめてもいいよ
元々せーが勝てるわけ…」

キム



「ほろほろ♡♡♡♡♡」

下乳

乳首

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡





「ごおみ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」
おみ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

グッ
グッ
グッ

グッ
グッ

グッ♡
グッ♡

グッ
グッ
グッ



「おっおっおっ♡♡♡
ちゅっちゅっちゅっちゅっ♡♡♡♡♡」

おっおっおっ

ちゅっちゅっちゅっちゅっ♡♡♡♡♡

ちゅっ♡♡

ちゅっ♡♡♡♡♡

Redaction marks (black bars) over the pelvic area.



Redaction marks (black bars) over the vulva.

ちゅっ♡♡♡♡♡



「あんなにロニーシハカセーの
くせにッなんなのこのちんぽあッ♡♡」

「こんなの絶対おかしいッ
あたしが負けるわけないもんっ♡♡」

「アッだッだめ♡♡今おれなッ
絶対ダメだカッ♡」

♡♡
♡♡
♡♡
♡♡

♡♡
♡♡
♡♡

|||

♡♡
♡♡

♡♡
|||



「おほおほら♡♡♡」

ぽんぽん

ぽんぽん
ぽんぽん
ぽんぽん

ぽんぽん

///

///



「おっぴんぐおまねじっけん」
おっぴんぐおまねじっけん

おっぴんぐおまねじっけん
おっぴんぐおまねじっけん

おっぴんぐおまねじっけん
おっぴんぐおまねじっけん

おっぴんぐおまねじっけん
おっぴんぐおまねじっけん

おっぴんぐおまねじっけん
おっぴんぐおまねじっけん

おっぴんぐおまねじっけん
おっぴんぐおまねじっけん

「おっひん…
だっ出さないうんこ…
言ったのに…」

「ばか…ッへんたい…ッ
ロリッンきめうし…ッ
きもあぎ…ッ」

「フッく…雑魚ちゃんほのへんこ
絶対っ…許さな…」

フッ
フッ

どろろ

フッ



「でゅわんわん♡♡♡」

おん

ん

ん

ん♡♡

ん♡♡





「おっおしいミ♡♡♡♡♡
おしいはダメネミ♡♡♡♡♡」

「アイグツイったのに♡♡♡♡♡
もうイグツラフミ♡♡♡♡♡」

「両方ちらほ好きなの♡♡♡♡♡
わいびいなるる♡♡♡♡♡」

「か？」

「おっおっ♡♡♡♡♡
おっおっ♡♡♡♡♡

「ゴピ♡♡♡♡♡」

「オム♡♡♡♡♡
オム♡♡♡♡♡

「オム♡♡♡♡♡」

「オム♡♡♡♡♡」

「いぬこいぬかなわらうミ
あたしの鼻かきでいらいおんミ♡♡♡」

「だから許してええミ
ちんぽオナホにしないでええミ♡♡♡」

「おわっちゃうミまわいせ
アナルもおわっちゃうミおんミ♡♡♡」



「おぶツイグツ
アナルからせーし
射精してイグツツツ♡♡♡♡♡」

「ぞこ穴わがらむらねこ
アケメきまっころちゅ♡♡♡」
「イグイグツおおおお
ひんひん♡♡♡♡♡」





数時間後



「じゅんじゅん…♡♡♡
ほんとうに…ずっじゅんちんぽ
清けするなんて♡♡♡♡♡♡♡♡♡

「わんせーのちんぽ体擦
まんこもあなるも…♡♡♡
がっばがばに柔らかく
なっちゃった…♡♡♡♡♡♡♡♡♡

ぽんぽん
ぽんぽん

「おっ…おお…♡
またイグツ…おっほ♡♡♡♡♡

ぽん

ぽん

がっ

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

がっ





















































「せーせー何であたしだけ
休み時間に運動しなきゃ
いけないのー」

「この体育授業さぼってたからっ
たってメンドクサイじゃね
普通の運動とか興味ないしー」





「こいっかがこれいっすいよーだし
あたし身体めっちゃ柔らかいから
必要ないんだよね」

4

「何いっかこ確かめるこ
いっすいよー」



「ん？せんせいなんか
手つきが変態っぽくない？」

サワッ

「あー教師の癖にあなたし
みたいな子が好きなんだっ」

サワッ

「あはは唾ついても無駄だっ
あだし詳しいから
分かるんだよねーそういっくん」



「もしかしてあたし一人だけ呼び出したのもさういうこと？」

サワッ

「うっわ最低だねせんせーちよっこえっちな事じこも分かんないって思ってたんだ」

サワッ

「残念でした、せんせーみたいなバカなオリコンおじさんの素之なんてお見通しなんだよね」



「あはは怒ったの？
わからせてやるの」

「ロリっせんせーの
ごちんぽなわがじゃ
出来る訳ないっ」

「いいよ勝負してあげても
あたしが負けるわけない」



「ふーんっ！ん脱がせる
うしろの尻尾はあるんだ」

「まあまあこの尻尾のうしろ
もかなに敏感だわ
もしかして痒い？」

「ううわちゃんほも小さいけど
見なくても分かるわ」



「けっ結構デカイじゃん…
まっまあ別に大したことないけど」

「膝がぶつくと
入れたらめんど
イっちゃってさ」

バキバキ

バキバキ

「ほら早くやってみなよ
負けるのが怖いなら
今のうちにやめてもいいよ
元々せーが勝てるわけ…」

キム





「ほろほろ♡♡♡♡♡」

下アキ

キミ

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡



「びびびびラミィ♡
ちゅっまだしゅんじゅん
途中だったごちゅ...」

「はっはあっもらいったか？
何言ってるのっこんなの
全然大したことないじこ」

ズズ
ズズ

びび
びび

ギョギョ

ズズ

びび
びび

びび



「ごおみ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」
おみ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

ゴッ
ゴッ
ゴッ

ゴッ
ゴッ

ゴッ♡
ゴッ♡



「おっおっおっ♡♡♡
ちゅっちゅっちゅっ♡♡♡♡♡」

おっおっ♡♡♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

おっおっおっ♡♡♡

ちゅっ♡♡♡



ニ
ン
ン
ン

ん
ん
ん
ん

ん
ん
ん

ん
ん
ん

ん
ん
ん
ん

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

「やだやだああッイきたくないッ♡
敗北まんこなんて絶対いやあッ♡♡♡♡」

パッ

パッ

パッ

パッ

パッ

パッ

「イグミ出されたらイグミ♡♡♡♡♡
雑魚ちんぽに負けちゃイグミ♡♡♡♡♡」

「♡♡♡♡♡ミミ♡♡♡ミミ♡♡♡ミミ♡♡♡ミミ♡♡♡」

ドッ
ドッ
ドッ



「わかったッせんせんッ
わかったからあッ引き分けッ
引き分けにしゅッ」

「これで許してあげるからッ
ねッだからもうおしまいッ」

「休み時間もっ終わっちゃうしっ
おしまいにしゅッ」





あーん
あーん
あーん
あーん
あーん

あーん

あーん
あーん
あーん

あーん

あーん

あーん
あーん
あーん
あーん
あーん

あーん

あーん

あーん

あーん
あーん
あーん

あーん

あーん

「おっひん…
だっ出さないうっご…
言ったのに…っ」

「ばか…ッへんたい…ッ
ロリっんきめうし…ッ
きもあぎ…ッ」

「っっ…雑魚ぢんばのへんたい
絶対っ…許さな…」

「っっ
っっ」

「っっ
っっ」

「っっ
っっ」

「っっ
っっ」

「っっ
っっ」

「っっ
っっ」

「っっ
っっ」





「だめっだめっだめっ♡♡♡」

おっ

おっ

おっ

おっ♡♡

おっ♡♡

— —



「おっおしり♡♡♡♡♡
おしりはダメな♡♡♡♡♡」

「アイグツイったのに♡♡♡
もうイグツラフ♡♡♡♡♡」

「両方ちらほ好きなの♡♡♡♡♡
わいっわいなるん♡♡♡♡♡」

「か？」

「おっおしり♡♡♡♡♡
おしりはダメな♡♡♡♡♡」

「ゴピ♡♡♡♡♡」

「キョ♡♡♡♡♡
キョ♡♡♡♡♡」

「キョ♡♡♡♡♡」

「キョ♡♡♡♡♡」

「か？」

「いぬこいぬかなさらいミ
あたしの鼻かきつららぬき♡♡♡」

「だから許してええミ
ちんぽオナホにしないごええ♡♡♡」

「おわっちゃらうミまわいせ
アナルもおわつちんぽおみ♡♡♡」





「おっほっほおわったミ
せーしほっほおわったミ
」♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

「子宮もお腹もせーし
せーしまみれにされて
いきゅう♡♡♡♡♡♡」

「っせっせっせっせ
おほっほっほ♡♡♡♡♡♡」

「おぶツイグツ
アナルからせーし
射精してイグツツツ♡♡♡♡♡」

イグツ

イグツ

ギョルルッ♡

グワッ♡

イグツ

イグツ

「ぞっ穴わがらむらねこ
アケメきまっころちゅ♡♡♡」

「イグイグッおおお
じゅんじゅん♡♡♡♡♡」



「おっ……おあッ……
つよちゃんぽに完全敗北
しちゃったあ……ッ♡♡♡♡♡」

「おっ……じ……
残りの授業
自習にしているから
待っころ……っ」

「放課後まごちゃんほっこり……っ
そんなの絶対やばい……あ……
いつグッ……♡♡♡♡♡」





数時間後



「じゅんじゅん…♡♡♡
ほんとうに…ずっじゅんぽ
清けするなんて…♡♡♡♡♡

「わんせーのちんぽ体擦ん
まんこもあなるも…♡♡♡
がっばがばに柔らかく
なっちゃった…♡♡♡♡♡

ぽんぽん
ぽんぽん

「おっ…おお…♡
またイグツ…おっほ♡♡♡

ぽん

ぽん

がっ

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

がっ



















































